



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **26**
2019.7.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：研修会&総会／附属松本小学校／UnivNe／SDGs協働講座／山ノ内中学校／SDGsニュース

第1回研修会、通常総会が開催されます。ご参加ください

基調講演は自由参加です。総会では事業報告や本年度計画について討議されます。

8月24日(土) 13:00～16:00 信州大学教育学部図書館2階にて

13:05 基調講演「新学習指導要領に即してESDの授業実践を展開する」
講師:中澤静男先生(奈良教育大学)

14:40 総会:協議ほか

15:10 加盟団体紹介ほか

6月13日 信州大学附属松本小学校のユネスコ委員会への支援

本年より活動をはじめた委員会への支援を依頼され信州ESDコンソーシアムのコーディネーターとして行きました。5・6年生の20名が委員で、リサイクルなどの活動はしているがユネスコなどについての学習はまだしていないということでした。まずはUNESCOの意味を国連から紹介しました。UNは国連で、先の世界大戦の反省から、戦争をしない、させないことを目的とした組織で、その中にある機関の一つがユネスコで教育、科学、文化を担当している。普段、何のために勉強しているか考えることは少ないと思うけど、最終的には世界中が仲良く、協力して戦争のない平和を作ることにつながっていると思うんだよね。そのためのユネスコスクールであり、ユネスコ委員会でもあるね。ベルマーク集めも何のためか考えてみるとそこにつながっているよね。毎日の勉強も大事だけどそれが何のためなのか、何の役に立つのか考えることも大切だね。どんなに素晴らしい発明でも原爆のようなものはないほうがいいから。などなど、40分ほどなのでユネスコ活動にかかわる大枠だけを話しましたがわかってもらえたかな。先生から児童の感想などもいただくことになっています。



学校側からのご依頼は「新しく赴任して来られた先生が多いので、ESDの初歩から教えて欲しい」というもの。担当の先生と相談して、簡単な座学研修とESDカレンダー作成のワークショップを実施することになりました。

当日は、ESD/SDGsの要点を簡単にお伝えしてから、いよいよ本命のワークショップへ。昨年までにもESD授業の経験のある先生は、総合・生活の時間を軸にしたストーリーと領域・教科とのつながりのブラッシュアップを中心に。新しく赴任して来られた先生は、「去年はこんなことをしたよ」「こんな人にも協力してもらえるんじゃないかな」「こんな展開もできそうだよ」というアドバイスを受けながらESD授業の見通しを立てていくことを中心に。先生方が知恵を出し合いながら、みんなでESD授業の可能性を考える時間を持つことができました。(渡辺隆一)

6月30日 ASPUnivNet(ユニブネット)連絡会議が開催されました

ASPUnivNetはユネスコスクールの活動を支援する大学のネットワークで、昨年度より信州大学教育学部も加盟しています。6月30日にACCU神保町オフィスにて、加盟大学の担当者が集まり令和元年度第1回連絡会議が開催されました。昨年度、UNESCOが定めたユネスコスクールのガイドライン「UNESCO Associated Schools Network: guide for national coordinators」が改訂されました。このガイドラインには、ユネスコスクールの使命や目的、加盟校に求められることなどが記載されています。今回の改訂では、ユネスコスクールが当面注力すべき活動分野として、SDGsの目標4(教育)達成を目指し以下の3分野に関する活動を行うことが新たに示されました。

1.地球市民教育、平和と非暴力の文化、2.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル 3.異文化学習、文化多様性及び文化遺産の理解・尊重

ガイドラインの変更を受けて、ユネスコスクール加盟希望校が作成する書類の項目も修正されています。この3分野については、それぞれの分野の濃淡はあっていいものの、全ての分野に必ず触れることがユネスコスクールの使命として求められています。ぜひ、それぞれの学校でのESD活動を見直す際にご確認ください。(安達仁美)

7月3日 長野県主催「SDGsを学ぶ」が開催されました

県の信州環境カレッジと県立大学の協働講座として「SDGsを学ぶ：全4回」の初回「世界の流れ・日本の動き・長野の取組」が県立大学のCSIチーフキュレーターの秋葉芳江氏の講演がありました。長野県はSDGs未来都市に選定され県立大学も学生とともに地域・企業を結びつける新しい学びをSDGsを基礎として実施しています。特にSDGs“持続可能性”は世界的な価値であり理念であり、世界的にも企業において先進的に取組まれていることの意味を解説し、SDGsがこれからの世界のルールの大転換になることを強調した。講演の最後には、身近なSDGsの活動や取組んでいる企業、その製品などを参加者がポストイットに書き出し、SDGs17目標に張り出して全体でシェアし、長野県でも多くの事例がでてきたことがわかった。今後、様々なセクターの協働がSDGsを軸にして期待できると思われた。(渡辺隆一)

7月10日 山ノ内中学校でESD活動「中学生が夢みる町づくり討論会」が開催されました

ユネスコスクールの山中では「町の未来を構想していくことのできる生徒の育成」を目的として1年から3年まで系統的なESD活動を展開しています。今回は、3年生が1年から学習してきた集大成としてこの町の将来への提案を4教室で各3提案をおこない、町長や町議員、観光協会など町関係者に参加を求め、討論会を開催した。各提案はスキー場の夏季の活用として人気の出てきているキャンプ場設置や長野電鉄の運賃を引き下げることで利用を増やすことを他県での事例から提案、町中を巡るルートとチケットを多様な人向けに販売するなど資料や課題もふまえてかなり具体化していた。全ての討論を視聴できなかったが町関係者からは好意的な受け止めや課題など多様な意見提起があり、生徒は大人から提案を受け止めてもらえたという実感をえられたようである。金沢大学から北陸ESDコンソーシアムの加藤先生と院生の6名が参加され、石川県のユネスコスクールともぜひESD活動の交流をしたいと高い評価をいただいた。今回の学内外からの意見や評価ももとに今秋には、ESD活動の3年の成果として山ノ内町の素晴らしさを紹介するパンフを作成するという。また、今回の提案発表会は司会や進行も3年生がおこなっており生徒の自主性、実行力の高まりが感じられた。1・2年生も視聴参加しており、山中の今後のESD活動の見通しや発表スキルなどの学習向上にも効果的な討論会であった。(水谷瑞希・渡辺隆一)



SDGs
ニュース

NAGANO SDGs PROJECT が発足しました

「子どもたちに自分たちの未来について考え、行動する機会を。」をテーマに、長野県、信濃毎日新聞社など産学民官とが一体になってSDGsを広め、推進していくためにNAGANO SDGs PROJECTがスタートしました。「知ってもらう」「学び、考え、実行してもらう」ことを基軸に置き、それらの活動を新聞、冊子、WEBサイトなどで長野県内に広報をしていきます。これらが連動することで「SDGsを踏まえて考えることのできる人材」を育てることを目標とします。学校教育では以下のプログラムを実施します、・先生が学ぶSDGsセミナー、・SDGs出前授業、・みんなのSDGs宣言。活動の詳細については公式WEBサイト <https://www.naganosdgs.jp> をご覧ください。



信州ESD通信

No.26 2019.7.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：大山・高橋 TEL026-238-4034 kyoesd@shinshu-u.ac.jp